

【シリーズ】

新

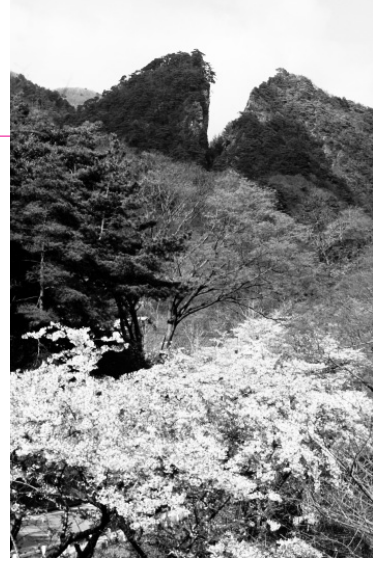
受験風土記 第23回

新潟県

このコーナーでは、各都道府県の大学進学に対する取り組みを紹介する。今回は新潟県を取り上げる。



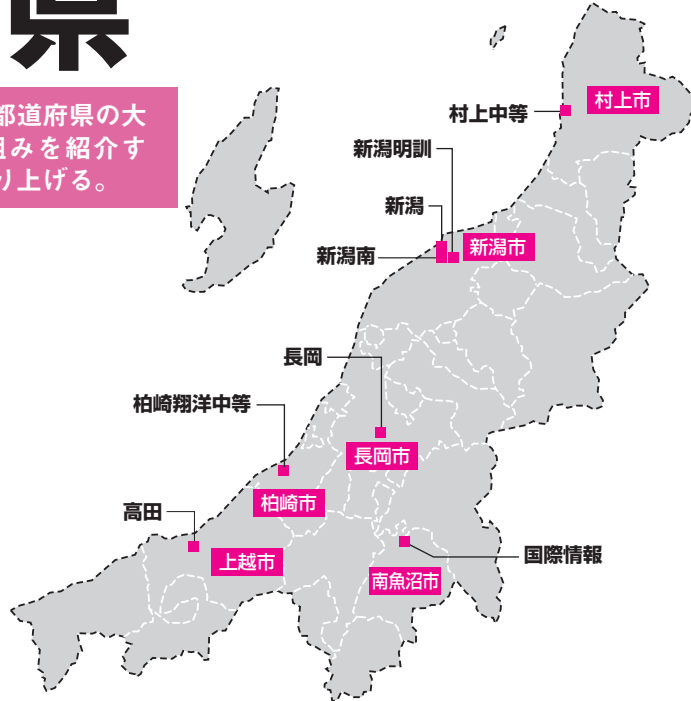
ハサ木の田園(新潟市)



佐渡金山(佐渡市)



瓢湖の白鳥(阿賀野市)



- 新潟県の人口：2,364,884人
(2011年6月1日現在)
 - 大学数：
国立3校、公立2校、私立13校
(短大除く、大学院大学を含む)
 - 高校数：公立99校 私立15校
(中等教育学校を含む)
- (人口は新潟県HPより
学校数は2010年度学校基本調査より)

大学進学率の上昇を基盤に 医学科などの難関大を目指す指導も強化

手厚い指導の普及、地元大学新設で
大学進学率が大幅に上昇

かつて新潟県は、大学進学率の低迷に悩んでいた時期があった。学校基本調査によると、1989年度の大学等進学率は19.4%で、47都道府県の中で唯一20%に届かない状況だった。その一方で、専門学校(専修学校の専門課程)への進学率が高い。2010年度も25.6%で、全国でも沖縄に次いで高い比率である。

「実学を尊重する県民性と、地元で大規模な専門学校グループがあることが大きな要因でしょう。全国有数の稲作地帯を抱え、地域に有力企

業も数多いので、できれば将来は地元で働いてほしい。そのためには、県外の大学よりも、地元の専門学校に進学すればよいではないか。そんな保護者の意識は根強いものがあったように感じます」(新潟県立長岡高校・内山文夫先生)

ただし、こうした志向も少しずつ変化してきた。2010年度の大学等進学率は48.2%と、全国30位まで上昇している<図表1>。

その背景には、1990年以降、公立大学2校を含む、11校の4年制大学が県内に新設されたこと、既存の伝統校に刺激を与えるような新たな高校の開設が相次いだことなどが挙げ

られる。

その新しい高校の1つが1992年度に開校した県立国際情報高校(24ページ参照)だ。大学進学を目指す専門高校であり、開校当初より通学区域に関係なく全県から入学できる学校として、新幹線通学者や寮生を含めて、幅広い地域から生徒を集めた(現在は、新潟県の高校入試における通学区域は全県一円となっている)。同校では、複数担任制、自宅学習記録表の運用、小テストの徹底など、さまざまな教育システムを導入。高い実績を上げたことから、他校でも同様の指導が、それぞれの学校の状況に合わせて変化しつつ、波

及していった。これらの手厚い指導が、近年、新潟県の大学進学率が上昇してきたことの下支えになっていると考えられる。

公立中高一貫校を8校設置 着実に実績を上げる

また、2002年度には、全国で2番目の公立の中等教育学校として、県立村上中等教育学校が(30ページ参照)誕生。現在は、8校の公立中高一貫校が開設されている<図表2>。中には、1期生・2期生から東京大合格者を輩出した学校もあり、話題を集めた。また、相互に授業参観を行ったり、津南中等教育学校と燕中等教育学校で合同合宿をしたりと、学校間の連携にも積極的だ。

「地域の既存の高校とも、いいライバル関係が築かれており、児童・生徒の選択肢が広がるとともに、地域全体の教育の活性化につながっています」(新潟県教育庁高等学校教育課・斎京四郎指導主事)

さらに、私立高校でも、新潟第一高校が1986年度、新潟清心女子高校

が1993年度、新潟明訓高校が2007年度に中学校を開校。6年一貫コースを設置して、難関大をはじめとする大学受験指導に注力している。

進学ランクアップ事業が 2006年度にスタート

2006年度に県教育委員会の「進学ランクアップ事業」がスタートするなど、県全体としての取り組みも進行している。この事業の柱の1つが「教科指導力向上のための教材等作成研修」だ。

「今年度は、英語、数学、現代文、物理、化学、地理の教員が計31校から65名集まり、東京大・京都大等の入試問題を分析・研究し、模擬問題を作成しています」(新潟県教育庁高等学校教育課・小林浩人副参事)

この研修の成果を受けて、春休み、夏休みに各4日間、開催されるのが「チャレンジセミナー」だ。難関大や医学科を目指す2年生が対象で、新潟、長岡の2会場に、各100名(春休みは新潟会場のみで150名)の定員で講座が開かれる。

「約25校の生徒が参加しています。講師を務めるのは、教材等作成研修で模擬問題を作成した教員です。教材等作成研修の成果をもとにチャレンジセミナー用にアレンジした問題を使用しています。難関大レベルの難問にチャレンジし、本番までにはこれを解ける学力を身に付ける必要があるという意識を高める効果は大きいと考えています」(小林副参事)

このチャレンジセミナーに対する各高校の評価は高い。「他校の生徒と机を並べて学ぶことによって、切磋琢磨する関係が築かれています」(新潟県立新潟高校・小林靖明先生)

進学ランクアップ事業のもう1つの柱が「進路希望達成・学力向上対策事業」だ。

「2つの取り組みで構成されています。進学指導充実セミナーは、6月と9月に、数学と国語の教員(約60校)が参加し、各教科指導で工夫している点について意見交換し、参考にするというものです。学力向上対策協議会は、6月に英語、9月に数学の教員(約45校)が集まっています。なお、進学指導充実セミナーは大学入試を意識した指導、学力向上対策協議会は基礎学力を徹底するための指導が中心のテーマになるところに違いがあります」(小林副参事)

さらに、校長協会、副校長・教頭協会もバックアップ体制をとっている。

「2010年度は、県内の大学と入試に関する情報交換を図る『新潟県大

<図表1>進路別卒業者の推移

(人・%)

区 分		年 度						
		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
卒業生数 a		26,193	25,377	24,616	23,714	22,813 [22,740]	21,845 [21,701]	21,814 [21,664]
進路別	大学等進学者 A	10,020	10,231	10,789	11,197	11,121 [11,064]	10,696 [10,574]	10,557 [10,432]
	専修学校(専門課程)進学者 B	7,629	7,136	6,620	5,660	5,281 [5,275]	4,915 [4,908]	5,576 [5,568]
大学学部・短期大学本科への志願者数		12,256	12,091	12,496	12,611	12,267 [12,203]	11,994 [11,859]	11,870 [11,732]
大学等進学率	当 県 $A/a \times 100$	38.3	40.3	43.8	47.2	48.7 [48.7]	49.0 [48.7]	48.4 [48.2]
	全 国	45.3	47.3	49.3	51.2	52.9 [52.8]	53.9 [53.9]	54.4 [54.3]
専修学校(専門課程)進学率	当 県 $B/a \times 100$	29.1	28.1	26.9	23.9	23.1 [23.2]	22.5 [22.6]	25.6 [25.7]
	全 国	19.2	19.0	18.2	16.8	15.3 [15.3]	14.7 [14.7]	15.8 [15.9]

(注)全国数値は学校基本調査による(2010年度は速報値)。

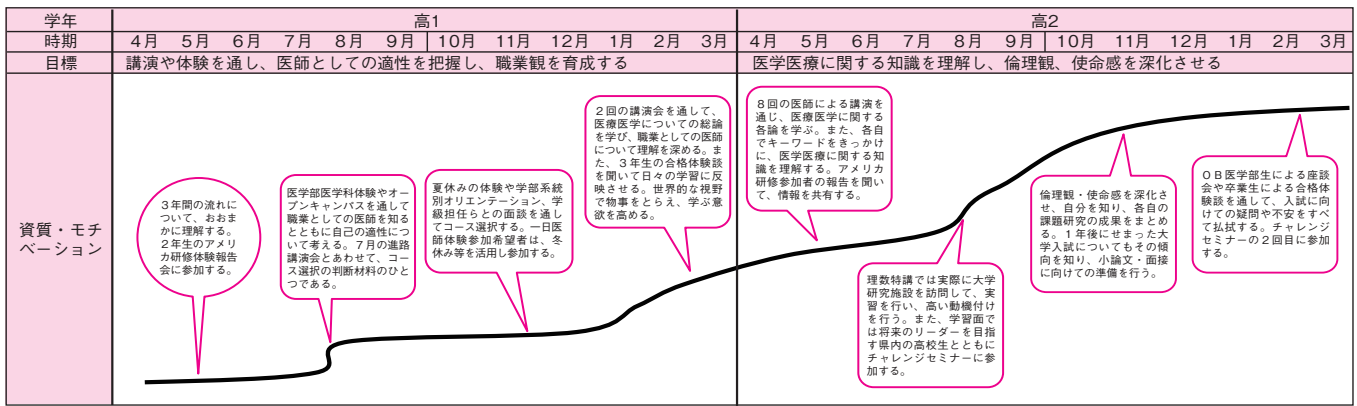
2008年度以降は、高等学校(全日制・定時制)及び中等教育学校の卒業者の合計値を表し、[]の数値は、高等学校卒業者の数値を表す。

新潟県教育庁総務課 大学等進学状況調査(2010年10月)より河合塾作成

<図表2>新潟県の公立中高一貫校

学校名	設立年度
新潟県立村上中等教育学校	2002
新潟県立阿賀黎明中学校・高等学校	2002
新潟県立柏崎翔洋中等教育学校	2003
新潟県立燕中等教育学校	2005
新潟県立津南中等教育学校	2006
新潟県立直江津中等教育学校	2007
新潟県立佐渡中等教育学校	2008
新潟県立高志中等教育学校	2009

<図表3>新潟高校 理数科 メディカルコース グランドデザイン(抜粋)



学ガイダンスセミナー』や『県内大学と高校進路指導担当者との入試懇談会』などの運営に協力しました。年2回(6月・11月)、県教育委員会の進学ランクアップ事業との連携で、14校(新潟、新潟南、新発田、長岡、三条、国際情報、柏崎、高田、村上中等、柏崎翔洋中等、燕中等、津南中等、直江津中等、佐渡中等)による『大学進学ランクアップ連絡会』も開催し、各校の進学状況や、難関大志望者への学習指導などに関する情報交換を行いました。県全体の実績を上げていくためには、高校同士が連携を図り、ノウハウを共有・継承することが不可欠です。今後こうした取り組みをさらに活発にしていきたいと考えています」(新潟県立長岡大手高校 鷲尾雄慈副校長)

**県の医師不足解消を目指し
2校にメディカルコースを設置**

このように、さまざまな取り組みによって、着実に大学進学率が上昇してきたことを基盤として、近年は、難関大の合格者増加を目指した動きが出てきている。

特に、新潟県にとって緊急の課題となっているのが医師不足だ。そこで、2007年度に、県立新潟高校と県立長岡高校の理数科を1クラス増設

し、2年次からメディカルコースとサイエンスコースに分かれる体制にした。「単に学力向上を目指すのではなく、多彩な体験学習を導入しました。その中で、医療や科学技術の世界の実情に触れ、確かな目的意識を持って学部を選択するプログラムになっています」(斎京指導主事)

両校とも、医学科志望者が大幅に増加しており、狙いは成功している。ここで、両校での医学科志望者向けの取り組みを見ていこう。

県立新潟高校では、さまざまな学びの場が用意されている<図表3>。「コース分け前の1年次に、新潟大や県の医師会、卒業生などの協力を得て講演会を実施し、医療の現状に関する概論を語っていただいています。2年次からは各論に入り、月1回ほど、医学の多様な研究分野、国際医療協力、コ・メディカルなどのテーマを絞った講演になります。1回65分の講演ですが、生徒が積極的に質問するため、延長することも度々あります。また、『理数特講』では、新潟大の医学部・歯学部にも各1日訪問します。手術室、病棟などを巡回するほか、脳研究所で先端研究の一端にも触れます。さらに、2年次には、講演を通して自分が興味を持ったテーマについて、論文を作成して

います。3年次では、面接指導に力を入れ、教員、校長だけでなく、校外の方による模擬面接も実施しています。志望校の形式にあわせた、きわめて実践的な模擬面接になっています」(新潟県立新潟高校・堀越康裕先生)

県立長岡高校も体験学習の場が豊富で、NHKの『クローズアップ現代』でも取り上げられた。「長岡市内には3つの総合病院があり、市医師会の全面的な支援を受けています。1年次に5回、2年次に3回、医師・看護師による『医療講演会』を実施。また、1年次の6～8月に、1日間の『病院見学』も行います。手術室の見学や、長岡赤十字病院には全国でも有数の新生児集中治療室(NICU)が設置されており、そうした先端医療の現場も体験しています」(新潟県立長岡高校・金澤康雄先生)

さらに、県教育委員会では、昨年度から「新潟大学医学部医学科体験講座」を始めている。「メディカルコースが設置されていない高校の医学科志望者に対しても、体験学習の場を用意しようという試みです。12月下旬に1・2年生を対象に実施し、17校から37名が参加しました。大学教員による模擬講義、病院施設見学、医学生が使うシミュレーターでの体

験学習、研修医・医学生との懇談会など、盛りだくさんの内容で、医師を目指すモチベーションの強化に役立っています」(斎京指導主事)

こうした取り組みの成果によって、新潟県の医学科合格者数は、2010年度入試で初めて100名を突破し、2011年度入試では111名と増加しており、今後が期待されるところだ。

以上見てきた新潟県全体の受験風土を踏まえて、各校の取り組みを紹介することにしよう。

県立高校

●新潟県立国際情報高等学校

自宅学習記録表と小テストで家庭学習の徹底を図る

1992年創立。各学年4クラスで、2年次から国際文化科と情報科学科に分かれる(1年次は括り募集)。

学科選択に役立てるために、1年次8月に実施されるのが職場訪問だ。1学年の担当教員12名が職場にアポイントをとり、その職業に興味のある生徒を引率する。訪問先は、病院、裁判所、農業試験場、企業など多岐にわたる。また、同じく1年次8月に、新潟大を訪問し、入試センター職員から、入試の仕組みの解説も受ける。職業と入試の両面から、自分の適性を判断して、所属学科を決めていく。

同校では、平日4時間、休日6時間以上の自宅学習を目標に掲げており、それを実現するために、さまざまな指導を取り入れている。

その1つが自宅学習記録表だ<図表4>。上段に1日の科目別の学習時間などを記録。下段には1日を終えての感想を記入し、毎日提出する。

同校は1クラス3人担任制(クラス主任、担任、副任)を採用しており、交替で内容を確認し、コメントを付した上で、当日返却する。

「生徒が書き込む量は、生徒の意識を啓発する『コメント力』次第ですから、教員も力を入れています。教員と生徒の交換日記のようなもので、生徒の抱えている課題が、その日のうちに把握できるメリットがあります。また、全員の自宅学習時間を毎日集計し、平均時間を見ることで、全体的な中だるみが生じていた場合に、早めに対処することもできます」(本間康一先生)

「学年だより」も充実している。ほぼ毎日、時には1日2枚配布することもある。学習意欲を喚起するメッセージが中心だが、あまりにも厳しい内容が続いたときには、息抜きコーナーのようなものを設けることもあるそうだ。

さらに、自宅学習時間の確保に大きな威力を発揮しているのが「小テスト」だ。月曜日は1時限目の中で、それ以外の日は始業前に、10分間実施する。

「直前に学習した基礎的な内容のテストです。8割以上の得点を基準にしており、その日のうちに採点し、合格者は掲示板に貼り出します。不合格になると、

放課後に再テストを実施し、それでもクリアできない場合は補習を受けます。そうすると、部活動に参加できなくなるので、前日までにしっかりと勉強するようになります。また、この小テストは成績評価に反映させることを明言しています。日々の勉強の積み重ねが、成績評価につながり、推薦入試受験の可能性も開かれるようにしています」(本間先生)

また、3年次の8月に、5泊6日の学習合宿も行われる。90分×3時間の授業以外は、全員が1教室に集まり自習する。

「初日は、『なぜここまで勉強しなければならないのか』『帰りたい』という生徒もいます。けれども、自習時間中に、成績の良い生徒の集中力の高さに刺激を受けたりして、次第に目の色が変わってきます。最後に、『これから1週間、自宅でも同じよう

<図表4>国際情報高校 自宅学習記録表

学習と生活の記録 (4月) Reflect on Myself

My Goal of This Week: 朝6時起床 + 1h勉強

Reflect on Myself: 1日も怠りませんでした。 My satisfaction is ... 0 %

月	日	科目	時間	満足度	備考				
4/18	平日	学校	1.5	1.0	1	4	7	5	数 世 国 生 英
4/19	平日	学校	1.5	1.0	1	4	7	19	
4/20	平日	学校	1.5	1.0	1	3.5	7	20	
4/21	平日	学校	1.5	1.0	1	3.5	7	20	
4/22	平日	学校	1.5	2.0	2	1.5	6	29	数 世 国 生 英
4/23	平日	学校	1.5	2.0	2	1.5	6	29	
4/24	平日	学校	1.5	1.5	1	3	8	7	
4/25	平日	学校	1.5	1.5	1	3	8	7	
		合計	3	5.2	4	2.5	23	49	

今日の出来事

4/18 数科の授業... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理... 4/19 英語科の授業... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理... 4/20 いま、do it right... 2h 以後の... 4/21 漢字の勉強... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理... 4/22 英語科の授業... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理... 4/23 数科の授業... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理... 4/24 上のクラスは70%以上合格... 朝6時起床... 1h勉強... 満足度が低い... 授業、宿題から学習できない... 2h 時間管理...

に勉強してみてください』と奮起を促すとともに、合宿の感想文を書かせます。それを見ると、『受験生としての自覚が生まれた』『友人たちの姿勢に圧倒されて、自分も頑張らなければいけないと感じた』といった感想が多く、有意義な場になっていると感じています」(本間先生)

●新潟県立高田高等学校

企業への改善提案も行われる「高高 未来Clue Plan」

旧制高田中学校を前身とする伝統校。校是は上杉謙信ゆかりの「第一義」。2・3年生は普通科7クラス、理数科1クラス、1年生は普通科6クラス、理数科1クラスとなっている。文理分けは2年次に行く。

2009年度に県教育委員会の「オンリーワンスクール推進事業研究開発校」の指定を受けてスタートしたが、「こうこう ミラクル 高高 未来Clue Plan」(自らの『第一義』への鍵を探して、未来へのモチベーションを高めよう!)。進学校におけるキャリア教育プログラムの開発に取り組んでいる<図表5>。

その内容は多岐にわたる。まず、1年次に行われるのが「スクラップリレーノート」。グループ内で担当の生徒が興味を持った新聞記事をノートに貼り、それを回覧し、他の生徒が感想を書き込んでいく。一巡すると、次の担当の生徒が新たな新聞記事を貼るといったものだ。

「新聞を読む習慣が身に付き、世の中の動きを知るきっかけになるとともに、他の生徒が興味を持っていることに刺激を受ける効果も大きいようです。記事の分野は指定していませんから、最初は芸能・スポーツなどの記事を取り上げる生徒もいるのですが、それでは他の生徒があまり興

<図表5>高田高校 「高高 未来Clue Plan」年間計画表

学年	1 学年	2 学年	3 学年
	「聴く、調べる、表現する」	「夢は大きく、志は高く」	「挑戦する気概を育てる」
各学年のテーマ	探求活動とおして社会を知り、自分の夢について考える。	体験活動とおして自分を知り、社会での役割を考える。	教科の知識・技術を活用する学習活動とおして、問題解決能力の育成を図る。
各学年のねらい	夢を持たせるとともに、その実現のために読解力、表現力、創造力をつける。	社会の一員としての役割や責任を考えさせ、自他共に尊重できる生き方を模索させる。	自律心と向上心、目標達成意欲を高め、たくましい心とからだを育てる。
4月	スクールマナー講習・「高高 未来Clue Plan」オリエンテーション合宿		概要説明・春の遠足
5月		キャリア講演会①「創立記念日講演会」	
6月			
7月	キャリア講演会②	大学探訪 東北大学探訪	志望理由書作成講座
8月	全校登山		進路別学習(教科横断的学習)
9月	キャリアデザイン① 職業研究・学部学科調査		心とからだの健康講座①
10月	秋の遠足	未来の高高生プロジェクト	秋の遠足
11月	小論文講座	東京研修旅行実施3日間	心とからだの健康講座②
12月		進路ガイダンス①	進路ガイダンス①
1月	キャリアデザイン② (企業研究)		
2月	進路ガイダンス	進路ガイダンス②	進路ガイダンス②
3月	社会人講演会③ 「未来展望セミナー」	大学探訪 大別模擬講義	

味を示さず、コメントも書いてくれません。自然に取り上げるテーマが精選されていきます」(羽豆一秀先生)

同じく1年次には「グループ読書プログラム」も行っている。年間約7冊の課題図書を読み、総合的な学習の時間に感想文を書き、それをグループで回覧し、ディスカッションする。

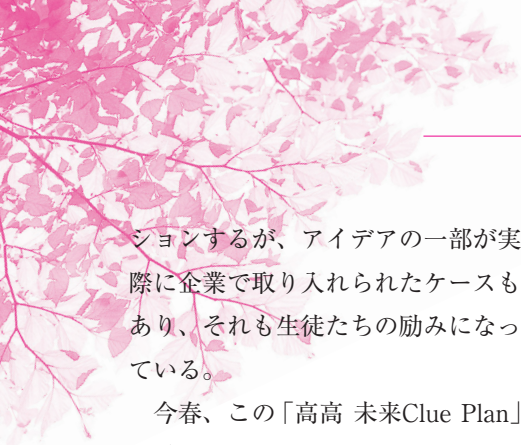
「最近の生徒の大きな課題は、活字離れに伴う読解力の不足です。こうした活動を通して、長文読解問題への抵抗感が減る効果は大きく、実際に模試で国語の成績が伸びているという効果が出ています」(羽豆先生)

また、2年次の10月中旬には、2泊3日で企業や大学を訪問する「東京研修旅行」を実施。その中心となっているのが、企業へのプレゼンテーションだ。事前に、1年次の1月か

ら、企業活動について概論を学んだ上で、2年次7月に担当企業を決定。与えられたミッションに対して、グループで研究を進めていく。

「例えば、昨年は『人事部のスタッフになったつもりで、独自の求人案を提案せよ』というミッションにしました。企業が求める人材像を考えることで、大学進学後に身に付けるべき能力について理解し、それを見据えた将来設計の構築につながると考えたからです」(羽豆先生)

研究した成果は、企業の担当者の前で発表する。訪問先は朝日新聞、キヤノン、新日本製鐵、大日本印刷、電通、三菱商事など日本を代表するような企業であり、しかも時には役員クラスが並ぶこともある。生徒は相当な緊張感の中でプレゼンター



ジョンするが、アイデアの一部が実際に企業で取り入れられたケースもあり、それも生徒たちの励みになっている。

今春、この「高高 未来Clue Plan」を受講した初めての生徒たちが卒業したが、国公立大合格者数は前年より30名増の172名。社会にはさまざまな職業があることを知り、自分の将来の方向性を真剣に考える生徒が増えたこともあって、志望する学部・学科も多様になっている。

「これまでのプログラムは、進路指導部が中心となって展開してきましたが、相応の成果を上げたことから、今年度から学校全体としての取り組みに発展させています。挨拶指導、部活動、清掃活動など、他の分掌で取り組んでいることも、キャリア教育の視点で捉え直すことによって、より総合的な活動に進化させることができると考えています」(羽豆先生)

●新潟県立長岡高等学校

卒業生の生の声を反映させた『進路だより』『体験記』を配布

長岡洋学校を前身とし、今年、創立140周年を迎えた伝統校。2・3年生は普通科7クラス、理数科2クラスで、現1年生から普通科6クラス、理数科2クラスとなった。普通科の文理分けは2年次で、理数科は2年次にメディカルコースとサイエンスコースに分かれる(23ページ参照)。

部活動も盛んな伝統校として、生徒の自主性を重んじる校風だが、近年よりきめ細かな進路指導を強化している。

その1つが、3年次4月に配布する「現役合格へのスケジュール」だ。月ごとに、学校行事や進路関係行事

に対応した、学習への心構えや、具体的に取り組むべき内容などを明示している。

「自らの状況に合わせた計画的な学習を進めてほしい。そのペースメーカーとして活用してほしいという思いで作成しました。ただし、こうした指導を教員側から一方的に強制しても、なかなか浸透するものではありません。そこで、さまざまな形で、卒業生の生の声を反映させるように心がけています」(金澤康雄先生)

例えば、卒業式の翌日には、難関大合格者4名による「卒業生体験発表」を実施。卒業式前日に、卒業生たちがさまざまな項目について自主的に記載する「無記名アンケート」も貴重な資料になっている。約30名の合格体験記を1冊にまとめた「文の林」も、後輩たちによく読まれている。

さらに、「進路だより」も2週間に

1回のペースで作成している。意識啓発を目的とした教員からのメッセージが中心だが、裏面には、その時期に応じた卒業生からのアドバイスが並ぶ<図表6>。先輩の声こそが最も効果的という考え方が徹底している。

もう1つ、同校で特徴的なのが、個別添削指導の充実である。5教科すべてで実施されている。実施形態は科目によって異なるが、生徒が自主的に取り組んだ志望校の過去問などの答案を教員のもとに持ち込み、指導を受ける場合が多い。

「生徒は一人ひとり志望校も学力レベルも異なりますから、個別添削指導は最も効果的な指導法だと思っています。しかし、添削指導を希望する生徒が多いことから、3学年の教員だけでは対応が困難でした。そこで、昨年秋から、他学年の教員にも呼びかけて、学校全体で1つの

<図表6>長岡高校 進路だより「先輩の声 授業・考査のアドバイス」(抜粋)

◎授業について

- ・先生の話をメモしたり、理科・社会・国語系はメモ程度に絵を書いたりすると、後でノートやプリントを見返したときに、「そういやこんなことを言ってたな」と思い出せたり、授業にも集中できた。
- ・受験の際、大半の大学入試は授業中に教わったことをきちんと理解し、それをアウトプットできさえすれば合格できる。ただ、誰でも多かれ少なかれ「穴」があるので、3年次はそれを埋めることに尽力することになる。1、2年次は部活で忙しい人も多いと思うが、とにかく「穴」をできるだけ作らないようにすれば、合格はより近づく。授業中に全て覚えてしまうつもりで挑むくらいがちょうどいい。

◎予習・復習について

- ・英語や古典は予習をすべきだと思う。特に英語は、たくさん英文を読んだり、訳したりして、とにかく長文に慣れることが大切だと思った。そのためにも、授業の予習はいい機会だと思う。他の教科は予習も大事だが、それより復習の方が大切のように感じた。その日に学んだことは、その日のうちに頭に入ると、忘れにくいように思う。
- ・気を抜いてしまいがちな家庭科や保健の授業も大切です。小論文を書くときに役立つと思います。私は看護系だったので、家庭科と保健の教科書を読み込みました。

◎受け身でなく参加しよう

- ・授業は受けるのではなく、参加しよう。受け身になって、自分の頭を動かさないと全く意味がない。
- ・板書は全部書き写すよりも、自分の中で整理して「まとめる」という作業を重視した方がよい。

◎部活をしている人こそ授業を大事にしよう

- ・部活で疲れて、予習復習ができない人はなおさら授業中に集中するべきだ。自分で勉強するよりも、先生の話はよく頭に入るし、先生が何回も言うことは大事なところだから、しっかり授業を聞けば、どこが重要か分かってくる。
- ・つまづいてしまったとき、「何がわからないのか、どうして出来ないのか」という2点を自分の中で見つけることができればよかったと思う。自分は部活が主軸になってしまっていたから、これをうやむやにして、失敗した。時間が無いときでも、授業で分からなかった所を印だけでもつけておけば、テスト期間にぐっと勉強するとき役立つと思う。

◎定期テストを目安にしよう

- ・授業をきちんと受けて、中間、期末テストの勉強をしっかりしたら、受験前でも頭に残っているものが多い。苦手で克服しようとした単元ほど頭に残っていた。

チームとして対応するようにしています」(金澤先生)

また、進路行事も豊富だ。1年次には、全生徒をバスで引率して、新潟大を訪問する。2年次7月には、大学教員4名を招いて模擬授業を受講する。大学の教職員が同校を訪問した際には、その大学の志望者を集めて「ミニ説明会」も開いている。

「大学の実情に触れることは、意欲的・主体的な学習を促進する上で大きな意味があります。けれども、多忙な生徒たちにとって、こうした進路行事に参加することが負担になってはいけません。今後は、精選して実施するとともに、1つひとつの進路行事の意義を明確化する努力も必要になると考えています」(内山文夫先生)

●新潟県立新潟高等学校

卒業生にも情報提供を続けモチベーションを維持

旧制新潟中学校を前身とする伝統校。現2・3年生は普通科8クラス、理数科2クラス。現1年生からは普通科7クラス、理数科2クラス。普通科の文理分けは2年次からで、理数科は2年次にメディカルコースとサイエンスコースに分かれる(23ページ参照)。

「メディカルコースは、単に学力強化を図るだけでなく、講演会や現場見学などの機会を数多く設けています。そのため、以前は、数学や理科の成績が良いという理由だけで、漠然と医学科を選択する生徒も見られましたが、このコース開設以降は、自分が医師に向いているのか、真剣に考えた上で、高い志を持って、医学科を選択する生徒が増えています」(平山剛先生)

早い段階から、先端医療の実態に触れることで、将来に大きな夢を抱く生徒も多いようで、年々医学科志望者が増加。今春の卒業生は、メディカルコース42名：サイエンスコース28名だったが、現3年生は60名：10名になっている。

難関の医学科を目指すとなると、必ずしも全員が現役合格を果たせるとは限らない。そこで、そうした卒業生に対しては、母校から情報提供を続けている。

「メディカルコースの第1期生が卒業した昨年度から、年3回『ますらお通信』を送付しています。体育祭などの学校行事を写真入りで紹介するほか、激励のメッセージを添えています。孤立感を和らげるとともに、モチベーションの維持に役立ててほしいと考えています。既卒者対象の推薦入試を実施している医学科

も多いので、今後は、入試情報の提供にも力を入れるつもりです」(阿部浩治先生)

卒業生の協力を得て行われる進路行事も充実している。3月には、1・2年生を対象に、難関大に合格した直後の先輩の体験談を聞く場を設け、新年度に向けて意欲を高めている。1年次3月(今年度は震災の影響で2年次8月に延期)には、国会、財務省をはじめ、東京で勤務する卒業生を訪問し、職業に関する話を聞く。2年次8月には東京大を訪問し、同校出身の教員による講義や、キャンパスツアーなどを行う。

さらに、3年生に配布されるのが「大学入試問題研究」である。東京大、東北大の入試問題の模範解答を各教科の教員が記した約300ページにおよぶ冊子だ。

「この冊子の後半部分には、『受験

<図表7>新潟高校 大学入試問題研究「受験実況中継」(抜粋)

受験大学	東京 大学	文科三	学部	学科		計
				前期	後期	
○て国七↑						
科目	英語	数学	国語	理科	地歴・公民	計
配点	200	100	100	100	100	110
科目	英語	数学	国語	理科・地歴・公民	その他	計
配点	120	80	120	60	60	440

…個別試験合格実況中継!…

2月26日 14:00-16:00 科目(英語)

前半 45分

①(1)文章から文法知識を問う
初めは難しすぎ、
その際、和訳を後にし、単語を
抜き出す条件は100%、面倒。
よくわからない。違和感があること
と「ある」箇所。5-1分程度は初め

(b) 第0問 (1) (2) は、
(1) (2) は、
(1) (2) は、
(1) (2) は、
(1) (2) は、

② (1) 作文(1) 内容と理由を形式
「私は」を「素晴らしい」で
書く。 (b) 作文(2) 自由作文
「人口増加の抑制と環境問題」の
一文について、思うことを書く。難しい。
模範が参考。

③ 長文 最初が少し長い。通読
容易。後半は少し長い。 (1) (2) ...

④ (1) シンガポール問題(10分) (10分)
予て予てカンガルーで、
5分程度は予て。

⑤ (1) シンガポール問題(10分) (10分)
(2) 45分
⑥ (1) 作文(2) 内容と理由を形式
(5-10分)
⑦ 長文 前半の予てから。

⑧ (1) 要約
(b) (c) 空欄補充 12分
合計 (b) が1分、(c) (d) は
おかしな問題が、
おかしな問題が、
おかしな問題が、
おかしな問題が、

実況中継』と題して、難関大を受験した生徒たちのレポートを掲載しています<図表7>。会場へのアクセス、試験会場の雰囲気、周囲の受験生の様子、準備しておけばよかったこと、入試問題に具体的にどのような取り組んだのかなど、生きた情報が満載で、後輩たちも真剣に目を通しています」(平山先生)

また、新潟県では理数科を設置している4校(新発田高校、高田高校、長岡高校、新潟高校)合同で、アメリカ研修を実施している。1年次の3月に、40名を選抜して、約10日間行われる研修だ。ハーバード大学や研究所を見学するほか、現地の高校や語学学校で授業も受講する。

「多様な国から留学してきている高校生たちと、授業や寮で討論する中で、自分の英語力不足や、物事に対する考え方が浅いことを痛感する意義が大きいと考えています。そうした問題意識を得た生徒たちは、帰国後の学びの姿勢が変化します。志望校もブレることなく、最後まで頑張り抜く生徒が多いという手応えを感じています」(渋谷浩一先生)

●新潟県立新潟南高等学校

高い国公立大合格実績を基盤に難関大を目指す指導も強化

1939年創立の新潟市立中学校が前身。普通科9クラスで、そのうち1クラスが理数コースだ。

2003年度からスーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けており、多彩な取り組みを展開している。例えば、理数コースの1年次8月に9日間の日程で行われるのが「アメリカ研修旅行」。国際的に活躍できる科学技術者の養成を目指して、マサチューセッツ工科大、フロリダ

大、ケネディスペースセンター、キシミー湿原などを視察する<図表8>。「希望制ですが、全員が参加しています。アメリカ研修に参加したいという目的で理数コースに入学してくる生徒も少なくありません。現地の大学や研究機関で講義・実験を体験することで、科学技術の世界における英語の重要性を実感。帰国後は英語学習に真剣に取り組むようになっています」(中島俊哉教頭)

また、理数コースでは、2年次に課題研究に取り組む。これまでのテーマを見ると、「抗ヒスタミン薬の合成と薬理作用」「エタノール燃料電池の研究」「温暖化がイネに与える影響」「コケは火星に生えるのか」などの研究が並ぶ。「社会情勢を反映して、環境をテーマとした課題研究に取り組む生徒が数多く見られます。そこで、2012年3月、本校で『環日本海環境

シンポジウム』を開催し、生徒に研究成果を英語で発表してもらう予定です。環日本海ということで、中国、韓国、ロシアの高校生も招き、発表・討論を繰り返してもらうことも検討中です」(中島教頭)

そのほか、新潟大、新潟薬科大と連携し、大学教員が高度な先端科学に関する講義を行う「高大連携科学講座」も年間8講座開講している。

同校では、今春、263名が国公立大に合格。特に新潟大合格者が115名と極めて多い。その背景になっているのが、手厚い指導体制だ。

「志望校を目指して、最後まであきらめず、粘り強く頑張る姿勢を支援するために、1年次から担任面談を年間最低4回実施しています。また、教務室(職員室)の半分を占めている会議スペースを、個別面談や質問のために生徒に開放しており、随時相

<図表8>新潟南高校 アメリカ研修旅行 行程表(2011年度予定)

日	出発地/滞在地名	予定スケジュール
第1日	新潟(学校)発 成田発	貸切バスにて成田空港へ 出国手続
	シカゴ着 シカゴ発 ボストン着	入国手続 専用バスにて移動、ホテルへ (ボストン泊)
.....< 日付変更線通過 >.....		
第2日	ボストン	午前/ MIT 日本人研究員によるレクチャー MIT キャンパスツアー 午後/ ダナファーマー病院訪問(日本人医師よりレクチャー) ボストン市内研修(ビーコンヒル・フリーダムトレイルなど) (ボストン泊)
第3日	ボストン	午前/ iRobot 社・MIT Nuclear Lab 研究所 午後/ MIT 博物館 ■MIT 博物館にて DNA Learning Lab プログラム ■MIT 博物館見学 (ボストン泊)
第4日	ボストン発 <マイアミ経由> オーランド着	空路オーランドへ <乗り継ぎ> 着後、ホテルへ (オーランド泊)
第5日	オーランド	フロリダ大学訪問 大学教授による講義と実験プログラム 講義テーマ「宇宙空間を飛ぶ光の分析」 オーランド科学センター見学(インタビュートゥア含む) (オーランド泊)
第6日	オーランド	ケネディスペースセンター(KSC) ビジターセンターにて施設見学 宇宙飛行士トレーニングプログラム (オーランド泊)
第7日	オーランド	キシミー湿原 ①エアポートに乗り自然観察(2~3隻)「環境・水質維持のための取組を観察」 ②現地水道局職員によるレクチャー「環境生態系において自然界が崩壊する理論」 (オーランド泊)
第8日	オーランド オーランド発 ダラス着 ダラス発	空路、ダラスへ 飛行機を乗り継ぎ、空路帰国の途へ (機内泊)
.....< 日付変更線通過 >.....		
第9日	成田空港着 成田発	到着後、入国手続 貸切バスにて、新潟へ

談に応じています。その結果、ほぼ全員がセンター試験を受験し、そのうち95%が7科目以上受験。9割が実際に国公立大に出願しています」(相馬純一先生)

1年次の7月には、総合的な学習の時間の一環として、新潟大のオープンキャンパスへの参加を推奨。9月には、1・2年生を対象に、新潟大4学部の教員による「大学講義体験」が実施され、新潟大を身近な存在に感じることも、合格者数の多さにつながっている。

こうした実績を基盤として、近年は、より難関大を目指す意識の啓発も強化している。

「1・2年次の7月下旬に、1泊2日の東京研修を実施。東京大、早稲田大などを訪問します。同じく7月下旬に、東北大のオープンキャンパスにもバスで引率しています。できるだけ1年生の参加を促し、早い段階から、難関大への憧れの気持ちを強めることで、学習のモチベーションにつなげています。また、保護者会でも、積極的に難関大に関する情報を提供。近年の本校の卒業生の実績を示しながら、保護者にも、難関大を身近な存在として捉えてもらうようにしています」(相馬先生)

県立中等教育学校

●新潟県立柏崎翔洋中等教育学校

6年間一貫の集団力を生かすLFプロジェクト

2003年創立の中等教育学校。普通科2クラスで、文理分けは5年次に行われる。女子生徒の割合が6割と多いこともあって、若干文系志望者が多い。

同校では、6年間一貫の“集団力”を生かした「LF(リーダーシップとフォロアシップを育む)プロジェクト」が展開されている<図表9>。全校生徒を、各学年2～3名ずつ、28グループに編成。学年の枠を超えた異年齢集団を組織し、体育祭などの学校行事や、地域の清掃活動、校地内外の美化活動などに取り組む。

「上級生が下級生の学習相談に応じたり、上級生による『将来の夢を語る会』などを開催しています。センター試験前には、受験に向かう6年生に、グループの後輩たちが激励のメッセージの色紙を作成し、貼り出しています」(飯田稔先生)

また、教員が前期課程(1～3年)・後期課程(4～6年)のそれぞれの授業を担当することも、一貫校のメリットだ。「前期課程の授業の中で、この分野はセンター試験でこのような出題になるといったことに触れる場合もあります。早めに大学入試を意識しながら学ぶことができます」(飯田先生)

一方で、中高一貫校の課題となるのが「中だるみ」。それを防ぐために、同校が導入しているのが「翔洋アチーブメントテスト(SAT)」である。3年次の8月末に、それまでの学習内容を総点検するテストで、各教科7割を目安に合格ラインが設定されており、不合格の場合は補習と再テストを行う。

日々の学習指導も充実している。1年次から週2日、英語と数学の朝テストを実施(残りの3日間は朝読書)。学年が上がるにつれて、朝テストの実施日は増え、6年次は毎日行われる。放課後補習は6年次の4月からスタートし、ほぼ毎日1時間開講される。

「放課後補習はセンター試験レベルなので、成績上位者は希望制にして、自分で記述対策を進めるように指導しています。6年次の7月頃からは、志望校別に少人数のグループを作り、出題傾向に合わせた個別指導も行っています」(飯田先生)

夏休みには、3年生と6年生を対

<図表9>柏崎翔洋中等教育学校 LFプロジェクト活動予定

1. 目的			
(1) 縦割り班による異年齢集団を組織し、さまざまな活動を行うことで、次の3点を育成する。			
①翔洋生としての自覚と自負			
②翔洋の伝統を受け継ぐ気持ち			
③リーダーシップとフォロアシップ			
(2) 異年齢集団が協力して活動をやり遂げることにより、コミュニケーション能力や思いやりの気持ちを育み、生きる力をつける。			
2. 活動概要			
(1) 全校生徒を、次の28グループに編成する。			
①各学年・学級で、3人ずつのグループを編成する。			
②1年生から6年生までを組み合わせ、28グループを作る。			
③年間活動で、リーダーとなる学年を設定し、その学年の生徒を中心に活動を進める。			
(2) LFプロジェクトで取り組む活動は、次の通りとする。			
①貢献する活動：地域の清掃活動、校地内外の美化活動、あいさつ運動など			
②ひらく活動：学習相談会、「将来の夢」、「6年生への激励メッセージ」など			
③つながる活動：体育祭のLF種目、レクリエーション、メッセージ交換など			
3. 活動内容(予定)			
NO	活動日	内容	リーダー
1	5/11(水)	・LF顔合わせ(班長・班の学年代表決定、自己紹介など)	6年生
2	6/1(水)	・親睦レクリエーション(体育祭LF種目練習)	5年生
3	6/15(水)	・体育祭準備(グラウンド整備)	6年生
4	7/13(水)	・将来の夢、夏休みの決意	4年生
5	8/31(水)	・清掃活動(校内、校地回り)	3年生
6	10/26(水)	・清掃活動(郊外)	1年生
7	11月	・学習相談会	2年生
8	12/7(水)	・6年生への激励メッセージ	5年生

※1 あいさつ運動を7月、9月～10月の2回(各14班ずつ)行う(1年生がリーダー)。
 ※2 行事やLF活動の後に、メッセージカードの作成を行い校内に掲示する。

て8割以上の得点を基準とし、それを満たしていない場合は、翌日の放課後、再テストを行う。

さらに、前期課程から計画的な学習を進める姿勢を養う指導も充実している。定期考査の3週間前に、試験範囲を公表。LHRの時間に生徒が個々に学習プランを作成する<図表10>。

「後期課程に入ってから、定期考査の3週間前になると、計画を立ててコツコツ勉強する習慣が自然に身に付いています。入試本番に向けても、そうした計画的な学習力は大きな力になっていると感じています」(射場先生)

私立高校

●新潟明訓高等学校

2007年度に中高一貫コース開設 中学校から学習習慣養成に注力

勤労青年による夜間講習会を起源とし、90年の歴史を有する私立校。スポーツの強豪校としても知られる。

「甲子園に出場すると、全校応援で夏期講習の一部は実施できないのですが、活気が生まれるためか、その年度の大学合格実績は向上する傾向が見られます」(坂田義史先生)

同校には4つのコースが設けられている。Iコース(4クラス)は週4日、7時限授業がある学習中心のコース。IIコース(3クラス)は、週2日、7時限授業で、勉強と部活動の両立が可能なコース。IIIコース(1クラス)は、スポーツ推薦(野球部・剣道部・陸上競技部・サッカー部)の生徒対象で、平日は6時限授業。IVコース(2クラス)は、2007年度に開設された中高一貫の生徒のコース

<図表11>新潟明訓中学校 一日の生活

月・金		時間	火・水・木	
生徒	教員		生徒	教員
朝テスト 朝読書	当日採点 読書指導 (内容・分野)	8:40	朝テスト	当日採点
学習ダイアリー 提出	コメント記入 赤ペンチェック	8:55 朝学活	学習ダイアリー 提出	コメント記入 赤ペンチェック
授業		9:05 {	授業	
16:40~16:45 朝テスト返却		終学活	15:40~15:45 朝テスト返却	
放課後			15:45~17:30 部活動(火・木) 放課(水) 部活動指導(火・木)	
<<自宅学習>> ●自主学習・課題学習 ●学習ダイアリーの記入		家庭	<<保護者>> ●学習時間の確保 ●学習ダイアリーの内容確認 ●確認サイン・読書へのアドバイス	

で、週2日7時限授業になっている。

I・II・IIIコースの文理分けは2年次から。一方で、IVコースは難関大入試に対応するために、できるだけ幅広い科目を履修させる方針で、現2年生は文理分けは行われていない(3年次は未定)。

「これまでの本校への最も大きなニーズは、国公立大に合格できる実力の養成でした。2011年度は146名が国公立大に合格しており、その目標は達成できるようになりました。今後は、中高一貫コースが開設されたこともあって、難関大にチャレンジする生徒をより増やすことが使命になると考えています」(坂田先生)

そのために、現1年生から、I・IIコースの成績上位90名を対象に、特別編成クラスを設置。中高一貫生以外でも難関大を目指す雰囲気高めようとしている。6月には、放課後に「難関大セミナー」「医学科セミナー」を開催し、入試状況の解説や、必要な勉強方法などに関するアドバイスも行われている。

中高一貫のIVコースの生徒に対しては、中学校段階で徹底的に学習習慣を身に付けさせている。中学校か

ら週2日、7時限授業を実施。週3回、朝テストを行い、学習進度に遅れのある生徒には個別の指導を行っている<図表11>。2人担任制で、日々の生活・学習記録もチェックする。また、英語と数学は1クラスを2分割して授業を行う。少人数制にすることによって、毎日出される宿題をきちんと消化しているか、個別に把握できるようにしている。

「中学校で学習習慣をしっかり身につけた上で、高校では自立的な学習を進めるように促しています。そのため、他コースでは朝テストと再テスト・補習を課しますが、中高一貫のIVコースだけは、その時間を朝読書に充てています」(坂田先生)

さらに、難関大を目指す気持ちが高めるために、夏休みに1泊2日で東北大見学会を実施。今年度からは1泊2日の東京大見学会も加わる。東京大見学会では、期間中に公開会場での模擬試験も受験する。「宿舍から試験会場まで、自分でルート調べて会場に向います。校内で受ける模試とは一味違った緊張感があり、入試本番のシミュレーションにもなるでしょう」(坂田先生)